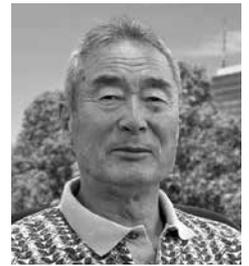


《2015年度 ICD日本部会・年末集会特別講演》

歯医者復活!!

—生涯、野球を続けるために—



野球評論家

金田 正一

●プロフィール●

昭和8年愛知県生まれ。

享栄商業高校卒業（飛び級し現在の中学3年での入学なので実際には2年中退）後、国鉄スワローズを経て、昭和40年より読売巨人軍に移籍。

在籍時の背番号34番は読売ジャイアンツ永久欠番となっている。

昭和44年現役引退まで、長身を活かして大上段からの速球と大きく縦に割れるカーブで三振の山を築いた左投左打の名投手。現役引退後はロッテオリオンズ監督を務め、平成4年より、テレビ番組でひっぱりだこのお茶の間の人気野球評論家となっている。

私は誰よりもありのままの自分を見せてきました。いまでもお風呂で見知らぬ方とお話し、仲間になることは本当に楽しいものです。そんなお風呂屋さんで語るようにざっくばらんにお話しできたらと思っています。

現代の野球において、日本選手にはダルビッシュ、田中、他にもいろいろな選手がいて、莫大な金(契約金)を取りますね。何十億。不思議に思いませんか。あの程度のピッチャーはアメリカにはたくさんいます。特に、ワールドシリーズに出てくるようなピッチャーというのは、もっとすごいピッチャーが出てくるのに、解せないですよ。

金をもらうことは良いのですが、野球そのものが金まみれ。試合に間に合わせるためにその金で専用飛行機まで乗る者もいる。今と昔では金に対するありがたみも変わっているように思うのです。

私は昭和8年生まれで、戦後すぐの混乱の真ただ中では一人の少年でした。もう野球どころではない。とにかく生きること。食料もなく死にもの狂いです。親の手伝いは当たり前で、食べ物を確保することに必死。そのころには近所で燕の巣を落とすくらいの石投

げを覚え、左でキャッチボールしていましたし、キャッチャーもさせられました。それが享栄高校に進むことになるきっかけでもあります。年齢でいえば中学3年、戦後のどさくさで高校1年に編入してしまうことになるのですが、そこでの芝監督との出会いなくしては今の自分を語れません。飛び級で勉強が全くできなかった私に「テストは何も書かなくていいから、白紙で出せ」と言い、たまたま野球部の連中とキャッチボールしているのを遠目で見、「私の目に狂いはなかった」と仰ったのだそうです。

また、私の人生は様々な人の御恩で成り立っているのですが、絶対的に母親の協力がなかったら育たなかったでしょう。戦時中ひもじい思いでいた中で芋だ、豆かすだとにかく食べさせてくれました。食べ物の恩なくして人間の価値はないというほど、食べることは大切なことです。終戦のお腹がすいて困っていた時に、それまでは嫌いだった焼き芋のおいが、芋屋の前を通るだけでぐわーとお腹がすく。けれど、食べたくてもお金がないのです。その時、芋屋のおじいちゃんが「坊主焼き芋食っていけ。金なんかいらん。」とってくれるのです。最高の人間の情けですね。いまだに

感謝しています。

そして、母親からは兄弟が多い中でも、どんなに寒く夜遅くなっても、冷や飯を食わされたことがないのです。いつもきちんとした食事を食べさせて頂いたのです。私が今でも1日の中で朝食はきちんと食べ、絶対に抜かないというのは、こうして母親が食べることの大切さを教えてくれたからだと思います。野球で得たお金を母に感謝の気持ちと共に渡そうと自然に思えたのも、こうして母が私を育ててくれたからなのです。

国鉄スワローズに入団した昭和25年当時、他球団で契約金100万円掲示される中、父親の即快諾により国鉄と契約してしまい、その契約金が50万円でした。その時、母親が5千円の小遣いをくれたのです。しかも『貯金するな。何でもいいから自分に投資して食べる。』と。親は親元を離れる子供にひもじい思いをされることが何としても辛いのです。

契約金50万円はすべて恩返しのつもりで母親に渡し、とても喜んでくれました。でも、5千円をくれた母は『正一、給料は貯金するな。』と普通の親とは逆のことを言ったのです。『とにかく食べる。』と。

それ以来、朝食は必ず摂り、水はミネラルウォーターを飲み、布団でも枕でも健康には気を使っています。少年時代からの母の教えがあったからこそぞだと思えます。「コンディションが悪かったら、野球は勝てないよ。」と。

野球は絶対に強い身体と最高のコンディションでなければ、同じチームで戦う限り勝てるわけがないのです。金田野球は規則正しい生活リズムときちんとした食事をもとに自己管理することが重要だと行き着いたのです。

昭和25年にプロ野球に入りましたが、当時は歯の治療に金歯を入れ、金銀ギラギラが流行った時代でした。私の前歯もいじりました。この前歯に何か少しでも入ったり、矯正するために歯を削って、『いい歯』にしているうちに色気が出たのでしょうか。若い男は皆やるのだと息巻いていた時に、出会った歯医者さんが止

めて下さったのです。「これほど強い力のある歯をなぜ切つてなくすの？ そんなことをすれば君は野球どころではなくなるよ。多少できても、健康を大変に害するよ。」と言われながらも、腑に落ちないまま、お会いするといつも怒られていました。

結局、その後は無闇に歯をいじることをやめ20数年たち、歯医者である娘婿の上司にあたる先生に見て頂くとともに褒められたのです。「これほど強い歯はない！」と。まだ写真も残っています。数いないというほど、きつく強い歯。指でも噛み切ってしまうほどです。きゅっと噛み締めることができる歯の力というのは野球に欠かせない、スポーツには欠かせない歯だと言われました。この歯のおかげで全力で野球に打ち込めました。歯なくして、何の健康があるか。今でも野球選手を教える時にはまず虫歯を全部治療させて、歯が悪い限りは健康にはなれないと、まるで歯の信者のごとく語っています。これぞ、本当の『歯医者（敗者）復活』なのです。

歯が悪ければ、どんな仕事もできない、食事もできない。とにかくよく食べ、よく寝て、運動することが大事なのです。そのおかげで、今日の自分がいるのです。

歯なくして人生ありえないという信念を持って、今の子供は歯もすぐ矯正したり、おしゃぶりしていますが、真の歯の姿勢を持つことが大切なのです。本当の歯を持たないと、将来野球選手ましてや、やりたいこともできません。金田になりたければ、まず歯を強くせいと。子供が元気になるには歯を大事にせいと私は言いたいのです。ここまで真剣に取り組む親御さんはいらっしゃるのでしょうか。食べる、栄養、健康、すべてにおいて本当に大事なことなのです。

皆さんも歯医者さんをされている中で、『歯医者復活』をぜひアピールして頂きたいのです。一生懸命、歯を、身体を健康にして400勝という金田の時代があったことを言い伝えて頂きたいのです。

ご清聴ありがとうございました。

(文責：事業運営(年末集会担当)委員会)

Importance of Teeth for Health —To Continue to Play Baseball throughout Life—

Baseball Commentator

Masaichi KANEDA

Kaneda was born in Aichi Prefecture in 1933. After graduating (accurately, leaving during the second grade, as he skipped the grade, and entered the school when he was a third-grade junior high school student, according to the current school system) from Kyoei Commercial High School, and belonging to the former Kokutetsu Swallows, he became a member of the Yomiuri Giants in 1965. His uniform number, 34, was permanently retired from the Giants.

Until his retirement in 1969, he, who threw and batted left-handed, had been among the best pitchers for the large number of strikeouts he achieved with his fastball, taking advantage of his height, and dynamically dropping curveball. After retirement, he directed the Lotte Orions, and from 1992 until the present, he has been a popular baseball commentator for TV programs.